

特別天然記念物

トキ (朱鷺 *Nipponia nippon*)



かつては 日本国内に広く分布したが、肉や羽根を取る目的で乱獲されたため、1925年ごろにはほぼ絶滅したとされていた。しかし、佐渡島で目撃されたことがきっかけで、1952年に国の特別天然記念物に指定された。

1981年、佐渡島に残された最後の野生のトキ5羽すべてが捕獲され、佐渡トキ保護センターにおいて、人工飼育下に移された。その後、繁殖の試みは全て失敗し、2003年10月10日、最後のトキが死亡した。この日、

日本産のトキは絶滅したのである。

ところで、**佐高の剥製のトキ**は、いつどこで捕獲されたのであろうか。残念ながら、そうした記録は一切残っていない。しかし、トキの辿った歴史を考えると、本州でほぼ絶滅とされた**1925年以前に捕獲**されたことは、ほぼ間違いないだろう。

やましな
山科鳥類研究所（鳥の研究を専門にしている日本で唯一の研究機関）にトキの剥製の価値について問い合わせしてみた。歴史の長い学校には貴重な標本が眠っていることが多いため、学校を対象に希少な鳥類の標本（剥製）の保有状況アンケートが2003年に実施したという。アンケートで回答のあった984校のうち、トキの標本を保有している学校は全国で**35校**だけだったそうだ。

担当者は、「同じトキでも、DNAは一羽ごとに違っており、剥製の羽からDNAを取り出すことができる。当時のトキについて知ることができる貴重な標本なのでぜひ大切に保管して欲しい。」と熱く語っていた。二度と戻ってはこない日本産のトキのDNAが、そこに確かに存在しているのだ。

「**佐高のトキ**」は佐高110年の歴史が残してくれた **大切な宝** なのである。